

■ 今月の特選句

2019年11月



私は代議士様と赤い羽根

西をさむ

赤い羽根を胸に刺しているのは、そのうち国会中継でテレビに映る議員さんだけになるかも。庶民は胸につけても三日がせいぜいというところ。



爪切って指に勤労感謝の日

田村米生

身近にあるものは、有って当たり前で感謝することがない。普段は忘れていたが、ひよんなことから気が付いたりも。まさに命もその一つだね。



燃え尽きた赤夕暮れの曼殊沙華

吉川正紀子

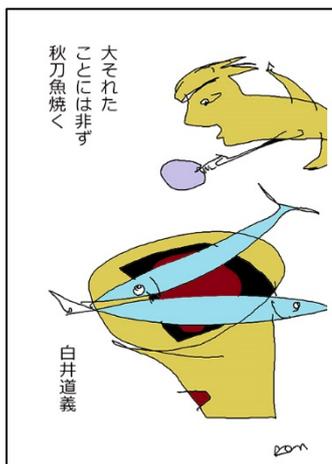
曼殊沙華の華やかさのプラスイメージを、燃え尽きたとマイナスにして、裏切り構成にしたことで成功。寂しさ悲しさが表現されて詩になった。



街路樹のどれも裸木ヌードショウ

青木輝子

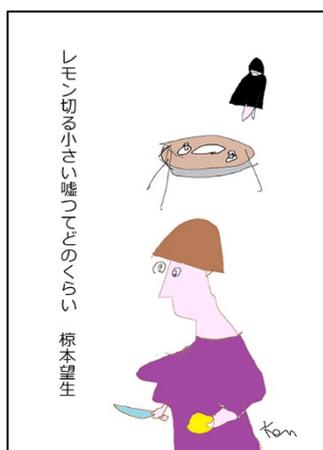
裸木だからヌードショー。しかも一本だけでなく、街路樹だからズラリ勢ぞろいで圧巻である。これまでにありそうでなかった発想だね。



大それたことには非ず秋刀魚焼く

白井道義

秋刀魚が不漁らしい。漁獲量は去年の一割程度で、価格は三倍とか。そう聞くと秋刀魚の有難味が一気に増す。焼き方も丁寧になるね。



レモン切る小さい嘘つてどのくらい

椋本望生

「僕は君に謝らなくては」「あら、改まって何よ」「いや、大したことはない。小さな嘘をついただけさ」「嘘の大きさと許す許さないは別問題よ」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

傾いてをれども笑顔捨案山子 ・・・笑顔いうてもあきらめかもね	本門明男
三日月を滑るも登るも兎の勝手 ・・・餅を搗くのを時には怠け	上山美穂
丸腰の日本見透かし颱風来 ・・・九条変へて台風対策	小川鈍太
バック出来ず枝先の尺蠖虫 ・・・そこが思案のしどころなのよ	相原共良
言ふほどに美味しくもなき秋の茄子 ・・・秋茄子食ひ過ぎ飽き茄子に	石塚柚彩
はっくしょん内緒話がこぼれてしまう ・・・噂話もこぼれるものに	鈴木和枝
ため口も丁寧語もあり虫の声 ・・・虫の世界に付度あるか	花岡直樹
優先席は死神の隣りか敬老日 ・・・おつと迂闊に座れやしない	池田亮二
着ぶくれて蝦蟇の油を売るつもり ・・・楽しい啖呵聞かせておくれ	田中早苗
ガラ携をスマホに替える文化の日 ・・・新製品のあとを追ひかけ	金城正則
運動会バトンと涙のポロリかな ・・・同時に落つるバトンと涙	梅野光子
虫の音にいつたん停止立いばり ・・・これで安心して虫も鳴く	小林英昭
掴めそで掴めぬ夢や後の月 ・・・掴んだ夢を覚めては忘れ	井口夏子

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

尾鰭を振っても千切れず金魚の糞
 手花火のはぜる間は目を閉じて
 狂花老いらくの恋めまいする
 地位名誉残る勲章文化の日
 かみさんのくちびる治れ秋の風
 熟すとも熟さなくとも柿は食ふ
 振り逃げの一塁セーフ末枯るる
 檀家まはる僧衣の袖の祈り虫
 はるの湯てふ銭湯消えて花野原
 生くるため匍匐前進する菜虫
 鼻腔にへばりし匂ひ金木屋
 鬼やんま威嚇するかに水打ちぬ
 台風に縄文生活強いられる
 時期外れ晩生の西瓜仏壇に
 花粉かと熱に咳出て秋の風邪
 寒々し立て板に水の二枚舌
 流し行く寒暮の街や赤ちょうちん
 薪能泥眼おぞまし猫目して
 甘藷食ぶ響く転失気二つ三つ
 ハロウィンがあるから南瓜は秋の季語
 荘園の戻りて佐野の馬肥ゆる
 秋に入る去年と同じ本置いて
 木の実降る屋根の向こうに居る人に
 願ふこと色々ありて星流る
 下戸なれどむかごの飯に酒少々
 新松子古い松笠押し退けて
 台風一過山となりたる傘の骨
 知らぬ間に無断採血蚊の逃げる
 耳鳴りと虫の声との二重奏
 自転車の前籠に入れ秋の月
 歓迎されてるハロウィンの厚化粧
 みにしむやその一言が想定外
 街中を道化に満ちてハロウィン
 木の実跳ね独学に耳すましみる
 衣被すべればつり砥部の皿
 秋深し母の衣桁に帯いろいろ
 猫じゃらし生ける尻からじゃれてくる
 釈迦如来笑みは洋風秋暑し
 台風禍サルノコシカケ釈迦めきて
 底なし沼泳ぎてわたる芒原
 月兎驚かしたる大太鼓
 たわたわとたわむ渋柿の青年期

相原共良
 相原共良
 青木輝子
 青木輝子
 赤瀬川至安
 赤瀬川至安
 赤瀬川至安
 荒井 類
 荒井 類
 荒井 類
 井口夏子
 井口夏子
 池田亮二
 石塚柚彩
 石塚柚彩
 泉 宗鶴
 泉 宗鶴
 泉 宗鶴
 伊藤浩睦
 伊藤浩睦
 伊藤浩睦
 稲沢進一
 稲沢進一
 稲沢進一
 稲葉純子
 稲葉純子
 稲葉純子
 井野ひろみ
 井野ひろみ
 上山美穂
 上山美穂
 梅岡菊子
 梅岡菊子
 梅岡菊子
 梅野光子
 梅野光子
 太田史彩
 太田史彩
 太田史彩
 大林和代
 大林和代
 大林和代

クレーンの重機はきりん天高し
 一夜漬漬け過ぎとなる秋夜長
 夢に見たハマチの届く不思議かな
 きぬずれを思ひ切らすや秋の風
 定住化残るツバメは屋上に
 神の旅途中我が家に福落とし
 年金と反比例する秋刀魚かな
 颱風の目が日本を見て笑う
 葡萄色似合ふ人にと服選び
 蟋蟀のちろちろとりハーサル
 存分に実らせトマトの疲れ気味
 山鳥の声を響かせ太山寺
 糸瓜忌の松山にゐる不思議かな
 葬祭の先頭に行く蟻の列
 水槽の金魚を狙う猫の足
 ずるずると音を立てずにざるうどん
 プロファイルせし無花果にかぶりつく
 法師蟬巖に沁み入る禅問答
 蟬時雨檜皮葺へと吸ひこまる
 秋暑し郵便ポストの赤い理由(わけ)
 繰り言を言ひつつ栗剥く厨の母
 大喧嘩金柑の実の大と小
 どぶろくや天下公認密造酒
 雀らが笑ひころげてゐる案山子
 渋滞がこの先にあり栗祭
 大根蒔く冬の支度の庭菜園
 墓参の我を並んで迎へ彼岸花
 長き日の勤続疲労身にしみる
 爽やかに忘れしことも忘れけり
 芋虫や煮ても焼いても食えぬ奴
 夜食食ひ子は残業のごと塾へ
 生き返る為のごくごく生ビール
 朝菜園物物交換夏野菜
 ボランティア募集に応募敬老日
 少子化の歯止めとなるか長き夜
 間引き菜に命のありし今日の椀
 秋澄むやダム満々と空映す
 月に届け笛に太鼓に練習中
 店中捜してあす稲刈る鎌
 恋敵今は時効の敬老会
 柿すだれ渋い男も甘くなり
 鳥威鳴れば逃げ込む社かな

小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 岡田廣江
 岡田廣江
 岡田廣江
 小川鮎太
 小川鮎太
 門田智子
 門田智子
 門田智子
 金城正則
 金城正則
 久我正明
 久我正明
 久我正明
 工藤泰子
 工藤泰子
 工藤泰子
 工藤泰子
 桑田愛子
 桑田愛子
 桑田愛子
 小林英昭
 小林英昭
 近藤須美子
 近藤須美子
 近藤須美子
 下嶋四万歩
 下嶋四万歩
 下嶋四万歩
 下嶋四万歩
 壽命秀次
 壽命秀次
 壽命秀次
 白井道義
 白井道義
 鈴鹿洋子
 鈴鹿洋子
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 高田敏男
 高田敏男
 高田敏男

釣瓶知らぬ子等にも釣瓶落しかな
 捨てる神拾う神みな神の旅
 邯鄲の夢のごときや酔芙蓉
 咳をする度に一滴
 売れつこの佻しき変装マスクかな
 買物役をアマダで決めている炬燵
 薬疹の広がる腿や暮の秋
 まあまあ甘い直売所の無花果
 鬼胡桃謹慎の子のポケットに
 虫の闇互ひの腹を探りあひ
 故郷の畔を飾るや曼珠沙華
 診断を迷わせてある秋の風邪
 心太つかみどころの無き海馬
 憎しかゆしだんまりの秋の蚊の
 省エネを守る役場の暑すぎる
 手の甲に日傘の骨で令和の傷
 曼珠沙華たち赤いのと白いのと
 二百十日備蓄乾パン期限切れ
 読むものがなくて朝刊読む夜長
 ホップした飛蝗ステップジャンプする
 菓子つまみ夜食不要と威張りけり
 内定を娘がもらふ秋うらら
 暴れん坊将軍ひそむ秋の闇
 曼珠沙華手を振る路地にオバタリアン
 秋暑し銀ブラ銀巴里金春湯
 ワールドカップのにわかファンにサクラ咲ク
 台風に備へトントン窓に板
 下剋上許してをりぬススキたち
 敬老日出るものが出る卒寿かな
 子を使い元を取る親苺狩
 三児みな近くて遠き敬老日
 火恋し夢路いとしや君恋し
 行く秋を伊予の奇人と詠いけり
 消火器を備えて旬の秋刀魚焼く
 五臓六腑にビール与えし夜長かな
 待ちきれず新米を炊く夕餉かな
 栗を剥く過去の記憶を食べながら
 手招きの手はしろがねの芒かな
 颱風に抗ふせみ殻の必死
 人ごとにかまっておれぬ吾亦紅
 豊の秋島に熟年野球団

高橋きのこ
 高橋きのこ
 高橋きのこ
 竹下和宏
 竹下和宏
 竹下和宏
 龍田珠美
 龍田珠美
 龍田珠美
 田中 勇
 田中 勇
 田中 勇
 田中早苗
 田中早苗
 田中晴美
 田中晴美
 田中晴美
 田村米生
 田村米生
 月城花風
 月城花風
 月城花風
 土屋泰山
 土屋泰山
 土屋泰山
 坪田節子
 坪田節子
 坪田節子
 坪田節子
 飛田正勝
 飛田正勝
 飛田正勝
 西をさむ
 西をさむ
 花岡直樹
 花岡直樹
 林 桂子
 林 桂子
 林 桂子
 原田 暉
 原田 暉
 原田 暉

とんぼうの空中戦や平和だね
 人形に時の人入れ菊着せる
 睡魔来て舟を漕ぎをり神の旅
 唐辛子隠しきれない隠し味
 どんぐりを集め一体どうする気
 秋草は夜に真価を發揮する
 おでん屋の暖簾に引かれ後ろ髪
 百薬も過ぎれば毒や神の留守
 夢の中産み落とさるる文化の日
 秋燈の灯り揺れれば美人に見え
 馬肥ゆる秋と云へども皺の吾
 秋晴に頭も晴ればれ一句かな
 長き夜や血圧測る幾度も
 秋の昼オオヒシクイの飛来聞く
 一日は長し短し栗ごはん
 引き換える腱鞘炎と栗飯を
 増税に備えて赤字きりぎりす
 亀虫や悲鳴と混乱の日暮れ
 とんぼうの垢煎じたし飛行学
 とんぼうのとりまきあまた上機嫌
 台風に号を授かり転生す
 玄関に真赤な魔除唐辛子
 秋彼岸おはぎと並びずんだ餅
 まだ食べてない話つて秋刀魚かな
 がっちりと柵で仕切られ大花野
 荒みし世我慢をさせて魂祭
 これがまあかつてマドンナ敬老会
 冬瓜や鎧の如き皮をつけ
 コスモスに見え隠れして通学児
 ヤレコレサ地区の絆の秋祭
 葡萄狩ボルドー色の服似合ふ
 鳴き方に起承転結法師蟬
 秋祭り小銭握つて駆け出す子
 薄氷や積もる汚染土何とする
 平和呆け良いではないか終戦日
 エスカレータに舞妓のひらり秋うらら
 舞茸は五目御飯に混ぜられる
 静まれば怒り悲しき秋の風
 あなたより冷房無しで生きられぬ
 あれそれと解せぬ二人に秋深む

八洲忙閑
 八洲忙閑
 八洲忙閑
 八塚一青
 八塚一青
 八塚一青
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳澤京子
 柳澤京子
 柳澤京子
 柳村光寛
 柳村光寛
 柳村光寛
 山内 更
 山内 更
 山内 更
 山下正純
 山下正純
 山下正純
 山本 賜
 山本 賜
 山本 賜
 横山喜三郎
 横山喜三郎
 横山喜三郎
 横山洋子
 横山洋子
 横山洋子
 吉川正紀子
 吉川正紀子
 吉原瑞雲
 吉原瑞雲
 吉原瑞雲
 渡部美香
 渡部美香
 渡部美香
 和田のり子
 和田のり子